

学力向上	豊かな 人間性の育成	健やかな 身体の育成
不登校児童 生徒支援	インクルーシブ 教育	食育の推進
学校・家庭・ 地域連携	その他	

事業名

小・中学校 I C T 授業アドバイザー設置事業

事業の経過・背景・課題

研修や I C T 支援員配置等で、教職員の I C T 操作技術や、教育と I C T の関連に関する知識は向上する一方で、授業での I C T 活用頻度や教職員の I C T 活用指導力において、全国平均や京都府平均と比べ低い状況にある。次なるステップとして I C T を効果的に活用して学びを深める授業への変革を目指す必要がある。

取組内容

交付実績額： 9,504 千円

- ・ I C T を効果的に活用した子ども主体の授業への改善を図るため、I C T 授業アドバイザーを委嘱し、学校現場に応じたより実務的な I C T 活用に関する提案・支援に加え、教員研修や研究の充実による教員の意識改革・人材育成に取り組む
- ・市立小中学校全32校を月2回訪問（担当校制）、毎月1回市教委と各学校のICT担当者の会議に出席
- ・教科書に合わせて、全学年の I C T 活用事例を紹介するチラシを毎月作成し、全教職員に配布
- ・毎月、市教委や各学校の I C T 担当教員との I C T 利活用推進会議に出席し、活用事例の紹介や、課題を共有し市内全体の I C T 活用力を底上げ

【活用事例】

（授業前）教員と I C T 授業アドバイザーが授業計画を確認し、I C T の使いどころを確認

（授業中）操作支援

（授業後）授業の振り返りと授業を通した支援



事業の成果・今後の展望等

授業での I C T 活用頻度は、令和 4 年度と比較して上昇し、I C T 活用は日常的になってきている。また、児童生徒へのタブレット端末利活用に関するアンケート調査（令和5年12月実施）でも、タブレット端末を使うと授業が分かりやすい（85.6%）、学習に集中できる（80.9%）と肯定的に回答している他、家庭にタブレット端末を持ち帰り、宿題以外に、調べ学習やタイピングの練習、デジタルドリルで予習・復習に自ら取り組むなど、児童生徒が主体的に学習しており、I C T の特性を活かした学習活動の充実につながっている。

I C T の強みを生かした学習活動は充実している一方で、子どもたちが考えをまとめ・表現する場面での I C T 活用には課題があるため、I C T をより効果的に活用するための授業支援に加え、研修や研究の充実も図りながら教科の学びを深める授業改善に取り組み、子どもたちの学びを個別に最適化し、創造性を育む学びへの変革を目指す。